

2024年3月期
決算補足
説明資料

5月9日



anicom

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード：8715



全体目次

1 2024年3月期 決算概要

2 2025年3月期 損益計画、および中期経営計画の進捗状況

3 APPENDIX

1

2024年3月期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)
5. 貸借対照表 サマリー
6. 重点施策の進捗状況





1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

経常収益

60,437 百万円

前年度比 **6.9%**増(3,908百万円増) 計画対比 **0.7%**増(437百万円増)
うち、保険引受収益は前年度比6.9%増(3,492百万円増)

のれん償却前 経常利益

4,362 百万円

前年度比 **11.8%**増(462百万円増)

経常利益

4,159 百万円

前年度比 **12.9%**増(474百万円増) 計画対比 **4.0%**増(159百万円増)

堅調なペット飼育需要を新規契約獲得に着実に繋げ、業務効率化の推進等により、
過去最高の収益・利益を更新

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は**22.3**万件、同保有契約件数は**119.3**万件(**7.2%**増)と**堅調な伸長を継続**
- 保険事業以外の、その他経常収益は**5,430**百万円(**10.5%**増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は**733**百万円(**12.1%**減)となったものの、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、**計画を達成**

■ 経常利益

- 契約獲得コストの改善や、業務運営の効率化により、**大幅増益、計画達成**



2. 損益計算書 サマリー

	(百万円)		
	23年3月期	24年3月期	対前年比 増減率
経常収益	56,528	60,437	6.9 %
保険引受収益	50,781	54,273	6.9 %
資産運用収益	834	733	△ 12.1 %
その他経常収益	4,912	5,430	10.5 %
経常費用	52,842	56,277	6.5 %
保険引受費用	35,664	38,436	7.8 %
・正味支払保険金	(27,934)	(30,494)	9.2 %
・損害調査費	(1,106)	(1,108)	0.1 %
・諸手数料及び集金費	(5,067)	(5,135)	1.4 %
・支払備金繰入額	(283)	(257)	△ 8.9 %
・責任準備金繰入額	(1,272)	(1,439)	13.1 %
(うち未経過保険料)	(1,161)	(1,325)	14.1 %
(うち異常危険準備金)	(111)	(113)	2.6 %
資産運用費用	118	97	△ 18.2 %
営業費及び一般管理費	15,350	15,795	2.9 %
その他経常費用	1,709	1,948	14.0 %
のれん償却前経常利益	3,900	4,362	11.8 %
経常利益	3,685	4,159	12.9 %
純利益	2,284	2,729	19.4 %

2. 損益計算書 サマリー



■主な勘定科目の増減理由

- ① 保険引受収益 対前年度比で、保有契約件数が**80,416件増加(7.2%増)**
- ② 資産運用収益 市場環境が不透明な状況下、柔軟かつ機動的に資産を運用
- ③ その他経常収益 動物病院・ブリーダーマッチングサイト等の経常収益が拡大
- ④ 正味支払保険金 通院頻度の高止まりに加え、診療費単価の上昇などにより、支払保険金が増加
- ⑤ 諸手数料及び集金費 販売チャネルの多様化や効率的な契約獲得により改善基調が継続
- ⑥ 営業費及び一般管理費 収益の増加に対して、効率的な業務運営で改善

(参考)アニコム損保 保険重要指標

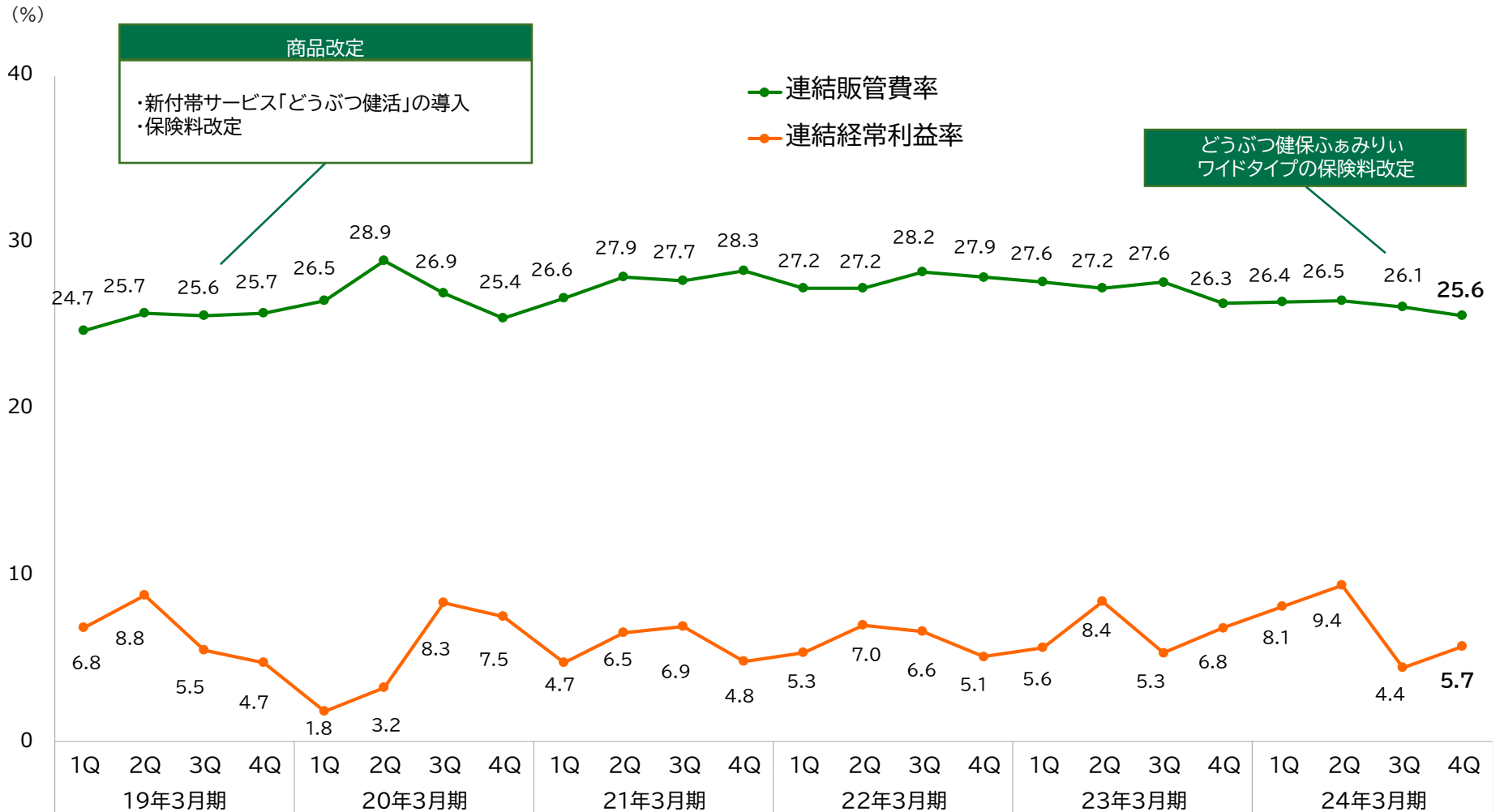
	23年3月期	24年3月期	(百万円) 対前年比 増減率
既経過保険料	49,797	53,171	6.8%
発生保険金(損害調査費含む)	29,324	31,860	8.7%
E/I損害率①	58.9%	59.9%	1.0pt
既経過保険料ベース事業費率②	34.9%	33.3%	△1.6pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(10.4%)	(10.0%)	(△0.4pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	93.8%	93.2%	△0.6pt



3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



商品改定
 ・新付帯サービス「どうぶつ健活」の導入
 ・保険料改定

**どうぶつ健保ふぁみりい
 ワイドタイプの保険料改定**

4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)

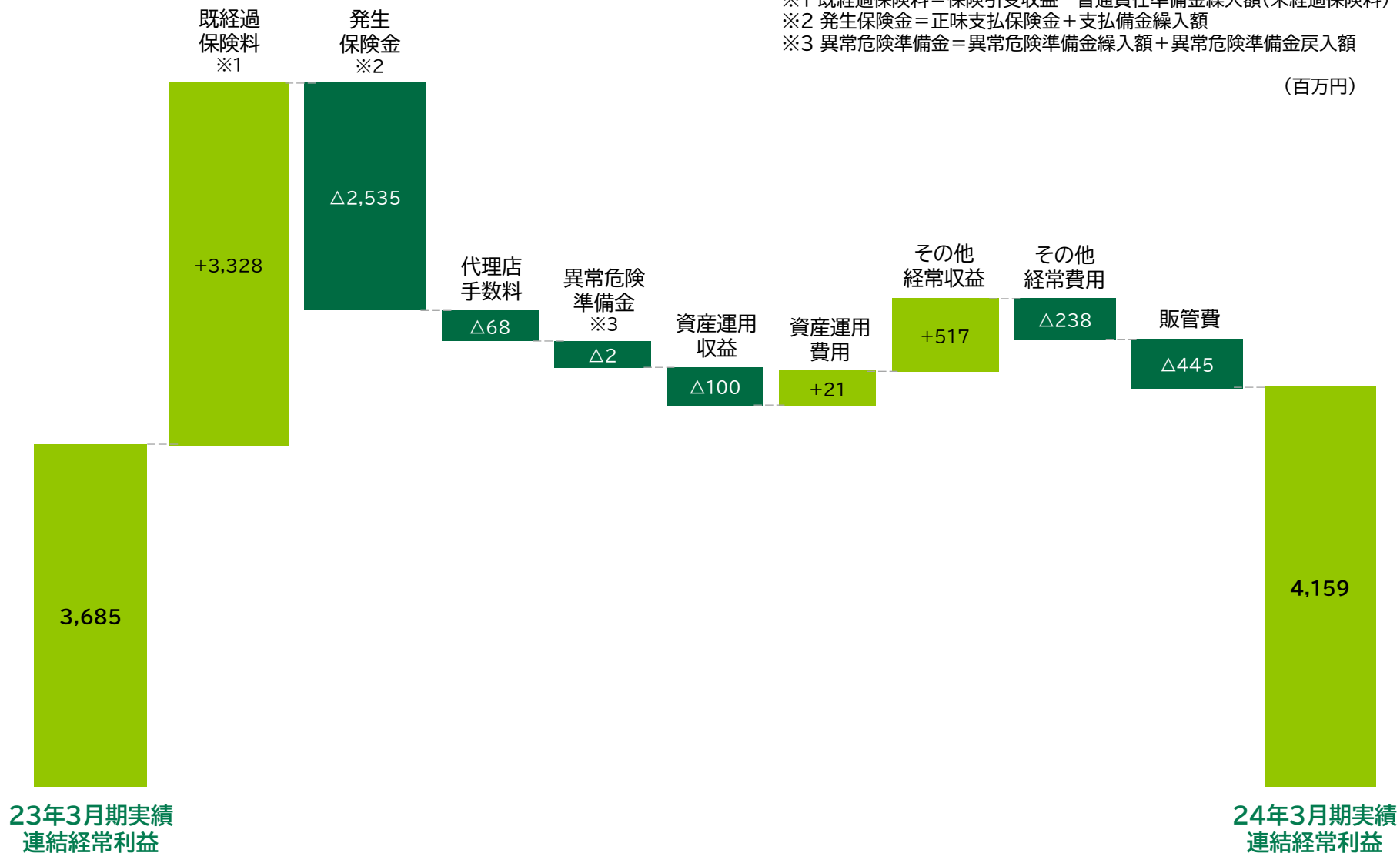


※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額

※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額

(百万円)



5. 貸借対照表 サマリー



(百万円)

	23年3月期	24年3月期	対前年比 増減率
資産合計	61,407	66,357	8.1 %
現金及び預貯金	30,835	23,879	△ 22.6 %
有価証券	16,956	27,510	62.2 %
固定資産	5,799	6,925	19.4 %
その他資産	7,815	8,041	2.9 %
負債合計	33,223	36,204	9.0 %
保険契約準備金	22,853	24,551	7.4 %
うち支払備金	2,988	3,245	8.6 %
うち責任準備金	19,865	21,305	7.2 %
社債	5,000	5,000	— %
その他負債	5,369	6,653	23.9 %
純資産合計	28,184	30,152	7.0 %
株主資本	29,740	31,144	4.7 %
評価・換算差額等	△ 1,555	△ 1,248	— %
新株予約権	—	0	— %
非支配株主持分	—	256	— %
負債・純資産合計	61,407	66,357	8.1 %

■ 主な勘定科目の増減理由

① 資産の増加

- 段階的な債券等の積み増しの実施による有価証券の増加

② 負債の増加

- 保有契約の増加に伴う保険契約準備金の増加

③ 純資産の増加

- 利益剰余金の増加



6. 重点施策の進捗状況 その1 保険事業・資産運用・その他

保険事業

新規・保有契約の状況

- ▶ 新規契約獲得件数は年間で22.3万件超
24年3月末の保有契約件数は119万件を突破
- ▶ 15年連続でペット保険国内シェアNo.1獲得

販売チャネルの拡大・強化

- ▶ 国内生保・損保との提携販売を拡大
現提携会社(朝日生命、明治安田生命、フコク生命、ソニー損保)に加え、
今後も順次拡大予定



保険料の改定

- ▶ ワイドタイプ(限度日数なし)商品につき、保険料を平均で7.8%の改定(引上げ)
※23年11月1日が始期日となる契約から適用

商品・サービスの拡大

- ▶ 「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、年間の継続率は88.2%と安定して高いレベルで推移

資産運用

- ▶ 柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成
インカム収益を着実に積上げながら、計画達成のペースで進捗

その他

- ▶ 「従業員一人一特許戦略」の推進
24年3月末 発明者数127名(20年12月末 発明者数13名)

【分野別 特許件数】※24年3月末時点

	画像認識AI	遺伝子 フード・腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許件数	7	6	2	3	18

【24年3月期に取得した特許の例】

- 特許7330258号 「感情判定システム及び感情判定方法」
- 特許7437479号 「保険料算出システム、保険料算出方法及び負担予測方法」

- ▶ 「2023年度 オリコン顧客満足度®調査」のペット保険ランキングにおいて「保険金・給付金」と「窓口精算」項目で第1位を受賞





6. 重点施策の進捗状況 その2 シナジー創出事業

産まれる前から

川上



日々の暮らし

川中



治らないを治す

川下



ブリーディングサポートの強化

- 動物愛護法の改正も踏まえ、各施策を強力的に推進中

マッチングサービス事業の強化

- 『みんなのブリーダー』『みんなの子猫ブリーダー』が、累計成約数30万件を突破(24年2月)



マッチングサービス事業(シムネット)24年3月期業績

- 売上高 : 2,371百万円 (前年度1,872百万円)
- 経常利益 : 188百万円 (前年度▲77百万円)

注)経常利益はのれん償却後

健診+口腔・腸内ケア商材の事業化

- 23年度「どうぶつ健活」申込累計 22万件超
- 「どうぶつ健活」を通じた口腔・腸内ケア商材の新たな展開

- 歯周病予防に向け、MA-T™を利用した歯みがきジェル「CRYSTAL JOY」の販売を開始

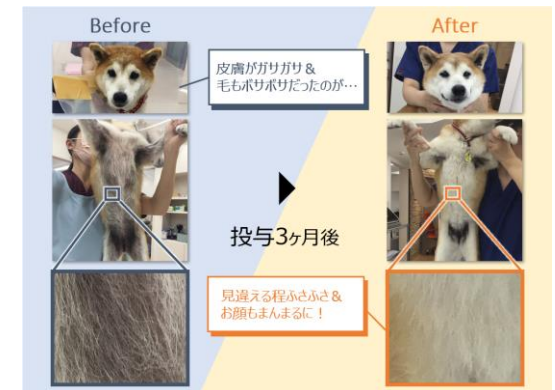


- 腸内フローラ多様性を高める「7Days Food」の販売を開始



動物医療関連(予防～一般・再生医療)

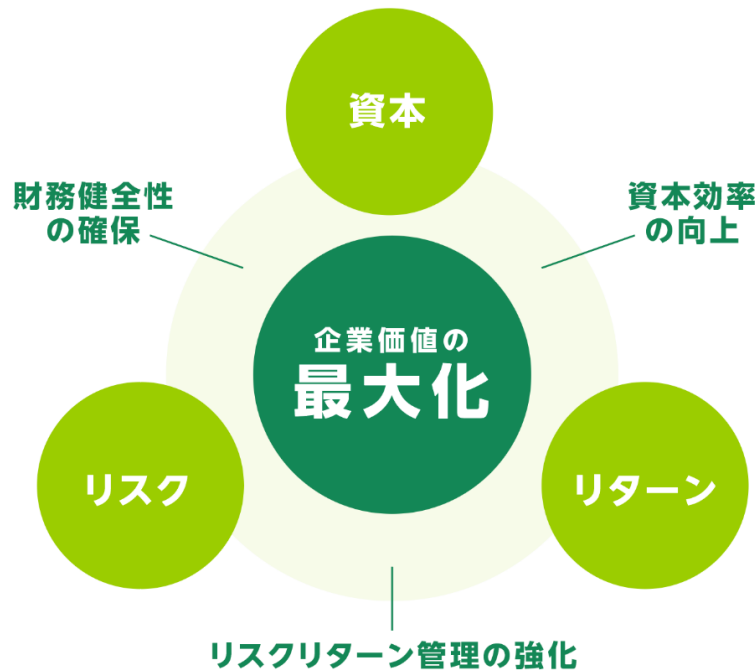
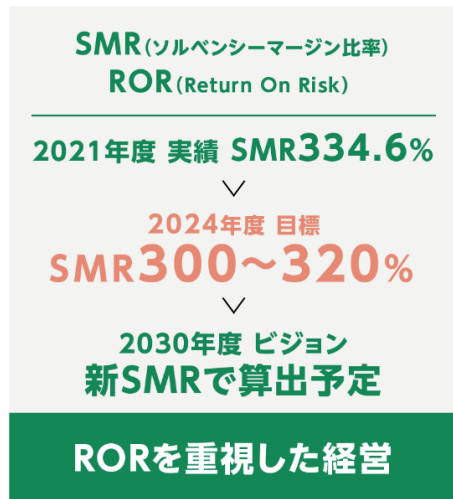
- 動物病院事業
 - 23年度 2病院増加(計55病院)
- 再生医療事業
 - 再生医療を用いた「治療法」「予防法」の確立
 - 動物再生医療技術研究組合729病院が加入
 - ※再生医療普及のために設立した組合





6. 重点施策の進捗状況 その3 資本政策・株主還元

- 自己株式取得 24年3月期 10億円(23年9月 取得済)、25年3月期 約30億円を予定
- 配当性向の向上 24年3月期 16.2%(前年度14.2%)
- 連結ROEの向上 24年3月期 9.4%(前年度8.2%) ※資本コスト7.0%(前年度7.2%) ⇒ エクイティ・スプレッドが1.4pt拡大




株主還元(配当性向・DOE)

2021年度 実績 配当性向 9.6%(増配後) > 2024年度 目標 配当性向 20%水準 > 2030年度 ビジョン 配当性向→株主資本配当率(DOE)での開示へ



6. 重点施策の進捗状況 その4 サステナビリティ

経済的価値と社会的価値を創造するサステナビリティ経営に向けた取り組みを推進

	取り組み内容	関連データ	23年3月期	24年3月期	
人	■ダイバーシティ ・多様な人材が最大限能力を発揮できるよう女性活躍を推進するとともに、男女問わず積極的な育児休業取得を推奨 ■災害支援 ・トルコ・シリア大地震、モロッコ大地震・リビア大洪水、能登半島地震への募金活動 ・能登半島地震では、どうぶつ用災害診療車の貸し出しや、被災された方のペットの一時預かり、迷子になってしまったペットの捜索支援などを実施	従業員女性割合(%)	60.9	61.4	
		女性管理職割合(%)	31.2	33.7	
		男性育休取得率(%)	77.8	68.0	
		発明者数(累計)(名)	103	127	
しごと	■殺処分ゼロ ・保護犬猫シェルター「ani TERRACE」や保護団体への譲渡会支援を通じて、74頭の犬猫を新しい飼い主へ譲渡 ■健康 ・疾患の早期発見に向けたどうぶつ健活(腸内細菌叢検査)を推進		hugU譲渡件数(件)	3,200	3,701
			譲渡会支援回数(回)	22	19
			保護犬猫譲渡頭数(頭)*1	18	74
			どうぶつ健活申込数(件)	211,731	220,413
環境	■気候変動 ・TCFDへの賛同を表明(2023年4月) ・GHGプロトコルに基づくScope1・2の温室効果ガス排出量を算出、公表 ・再生可能エネルギーの使用比率100%を達成(24年3月期)	Scope1排出量(t-CO ₂)	229	271	
		電力使用量(千kW)*1	2,325	2,562	
		再生可能エネルギー使用量*2	-	2,728	
		Scope2排出量*1,3(t-CO ₂)	997	0 *4	
		従業員1名あたり排出量 Scope1+2*1,3(t-CO ₂)	1.38	0.29	

*1 23年3月期はani TERRACEのみの譲渡頭数

*1 一部暫定値を含みます *2 再エネ由来電力および非化石証書 *3 マーケット基準
*4 再エネ分控除後

2 2025年3月期 損益計画、 および中期経営計画の進捗状況

1. 当社のグループ戦略と重点施策
2. 2025年3月期 損益計画(年間・半期累計)
3. 経営数値目標に対する進捗状況





1.当社のグループ戦略と重点施策

保険事業を中核とした、どうぶつの一生を豊かで健康にする為のビジネスモデルを深化

強みの『ペット保険事業』

- 予防型保険「アニコム」の独自性を追求し差別化
- 窓口精算システムによる高い顧客利便性と業務効率
- 全国をカバーする営業力と多様な販売チャネル
- 豊富なデータの解析による新たな健康延伸サービス等の価値創出
- 多様な専門人材の積極的な登用

外部環境

- コロナ禍における特需的な飼育需要は落ち着きを見せるが、引き続き堅調
- 大手企業等の相次ぐペット保険業界への参入
- 動愛法規制強化後、ブリーダーとペットショップの業態融合による流通革命の加速
- 動物病院の通院頻度の増加と診療費単価の上昇

どうぶつのライフステージに寄り添った『シナジー創出事業』

川上

生まれる前～お迎え



- 遺伝子検査事業
- マッチングサービス事業

川中

生活



- 腸内細菌叢検査事業
- 健康イノベーション事業

川下

医療



- 動物病院事業
- 再生医療事業

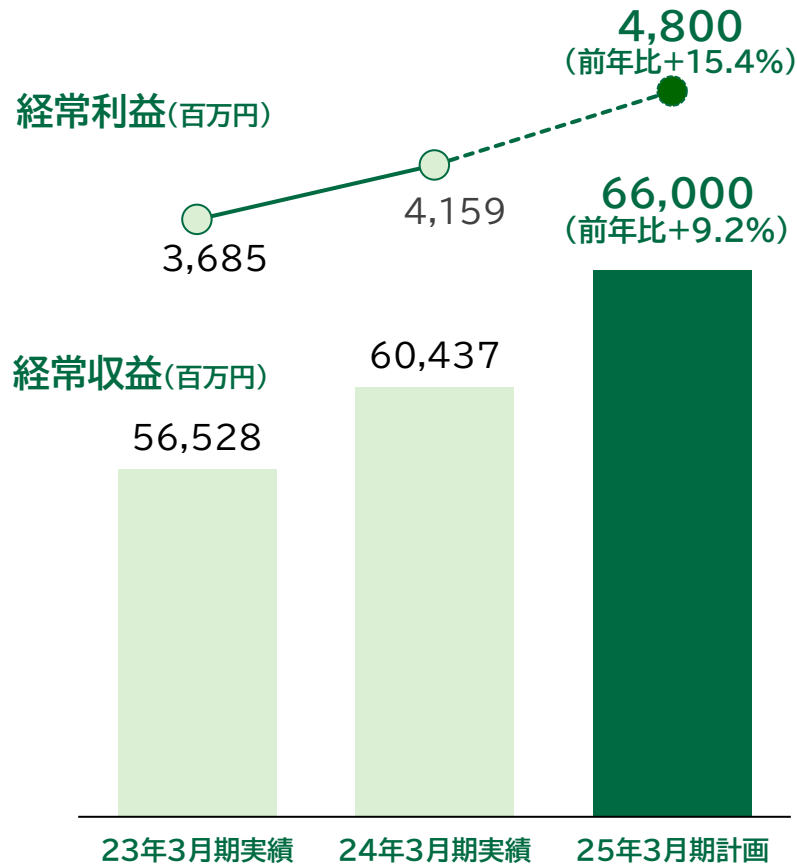
社会的価値と経済的価値の両立



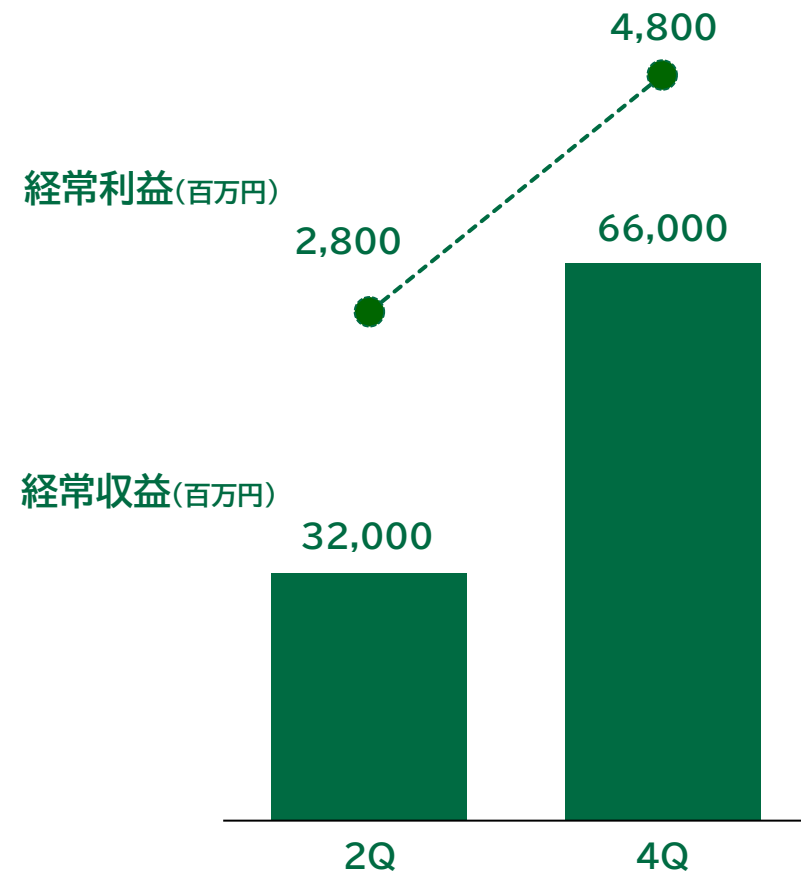
2. 2025年3月期 損益計画 (年間・半期累計)

- 経常収益は、経営環境の変化を見込みつつも、安定的な成長を持続
- 経常利益は、段階的に量と質のバランスを重視する姿への転換を図る

【年間計画】



【半期累計計画】





3. 経営数値目標に対する進捗状況 その1

中期経営計画に対して、概ねインラインで推移

【主要経営数値目標】

	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期目標	当初中期経営計画
連結経常収益	565.2億円	604.3億円	660億円	650～700億円
連結経常利益	36.8億円	41.5億円	48億円	45～50億円
連結ROE	8.2% (前年8.0%)	9.4%	10%	10%水準
株主還元 (配当性向)	14.2% (前年9.6%)	16.2%	20%	20%水準
シナジー創出事業 売上高・売上高比率	49.1億円 8.7%	54.3億円 9.0%	72億円 11%	78～84億円 12%水準
損保単体SMR (ソルベンシーマージン比率)	373.1% (前年393.5%)	333.7%	320%	300～320% ※

※中期的な保険の健全性に係る規制(リスク係数等)見直しの議論が進んでおり、今後の見直しを見据えた対応を検討中。



3. 経営数値目標に対する進捗状況 その2

保険事業は損害率の上昇を事業費率の低減でカバー

【主要KPI目標】

	23年3月期実績	24年3月期実績	25年3月期目標	当初中期経営計画
保険事業				
損害率	58.9% (前年58.1%)	59.9%	60.9%	58~59%
事業費率	34.9% (前年36.7%)	33.3%	32.3%	35~36%
コンバインドレシオ	93.8% (前年94.8%)	93.2%	93.2%	93~94%
シナジー創出事業				
遺伝子検査検体数	9.2万検体/年	6.7万検体/年	6.5万検体/年	12~15万検体/年
腸内細菌叢申込数	21.1万測定/年	22.0万測定/年	25.2万測定/年	20~25万測定/年
健康イノベーション事業売上	0.63億円	1.76億円	8億円	売上8~10億円へ
病院事業 ※	売上 : 17.6億円 のれん償却後利益 : ▲2.6億円	売上 : 18.7億円 のれん償却後利益 : ▲1.7億円	売上 : 22億円 のれん償却後利益 : 0億円	売上30億円へ のれん償却後で黒字

※過年度を含め、間接部門経費配賦後の数値を記載

3

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ (ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ (損害率(E/I)、既経過保険料ベース事業費率)





1. 主要経営パラメータ

	23年3月期末	24年3月期末	対前年度比		25年3月期末 (5月9日予想)
			件数	率	
① 保有契約数	1,113,144 件	1,193,560 件	80,416 件	7.2 %	1,280,000 件
② 新規契約数	218,695 件	223,289 件	4,594 件	2.1 %	230,000 件
③ 継続率	88.2 %	88.2 %	-	0.0 pt	88.2 %
④ 保険金支払件数	4,216 千件	4,381 千件	165 千件	3.9 %	4,800 千件

	23年3月期末	24年3月期末	対前年度比 増減	25年3月期末 (5月9日予想)
⑤ E/I損害率	58.9 %	59.9 %	1.0 pt	60.9 %
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	34.9 %	33.3 %	△1.6 pt	32.3 %
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	93.8 %	93.2 %	△0.6 pt	93.2 %

	23年3月期末	24年3月期末	対前年度比 増減
⑧ 単体ソルベンシー・マージン比率※	373.1 %	333.7 %	△39.4 pt

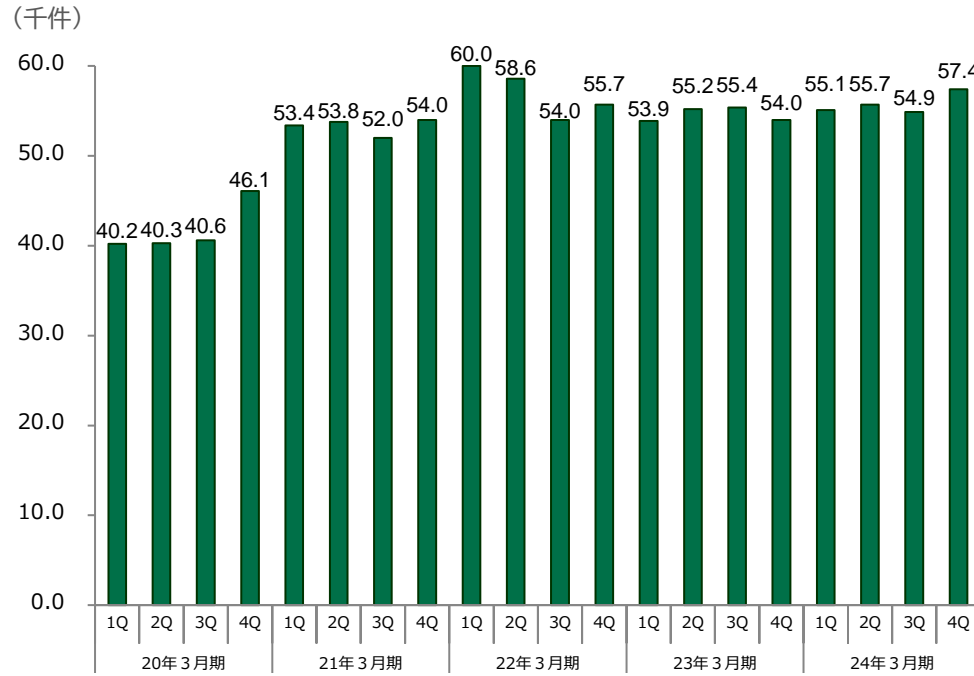
※24年3月期末のソルベンシー・マージン比率は、23年3月期末から39.4pt減少しております。これはアニコム損保から親会社への中間配当を実施したことから、ソルベンシー・マージン総額の項目である「資本金又は基金等」および「その他(税効果相当額)」が減少していることによるものです。

	23年3月期末	24年3月期末	対前年度比 増減
⑨ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	211,731 件	220,413 件	4.1 %
⑩ 対応動物病院数	6,789 病院	6,879 病院	1.3 %
⑪ 遺伝子検査検体数	92,313 件	67,801 件	△26.6 %



2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

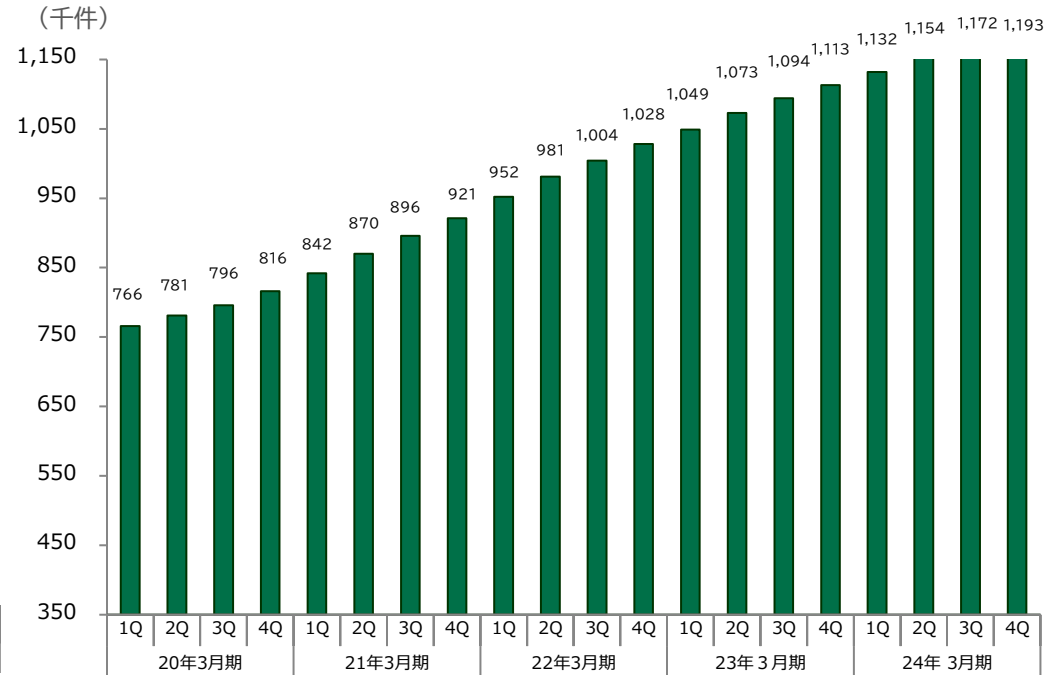
新規契約獲得件数の四半期推移



新規契約獲得は堅調

NB・一般チャネル合わせて22.3万件(24年3月期累計)を超え、堅調に推移
年間計画22.0万件に対して101.5%

保有契約件数の四半期推移



保有契約件数

119.3万件となり、年間計画120万件に対して若干未達も順調に推移



3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

【参考情報】

15年3月期 1Q

- 保険料改定
- ・平均12%の改定

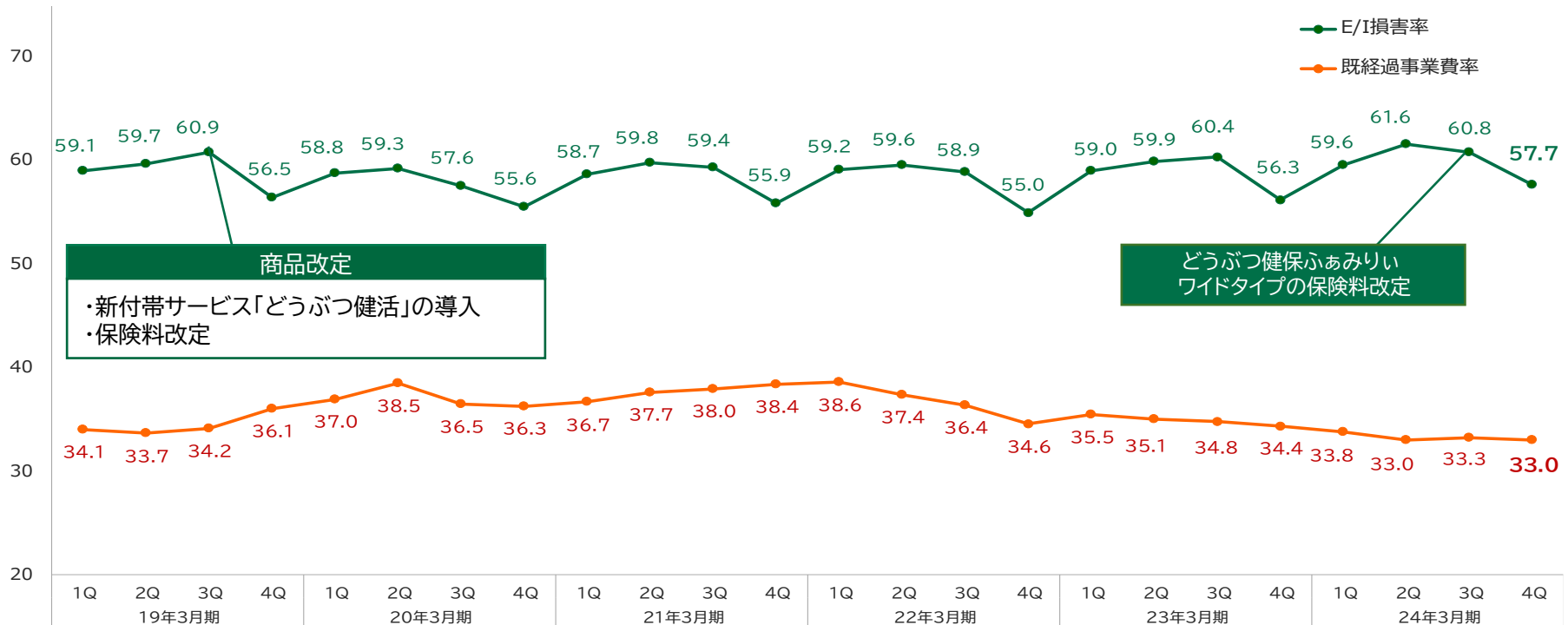
15年3月期 3Q

- 限度日数付き新商品
- 健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

- 保険料率改定
- ・8歳以上の保険料改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



E/I損害率について

20年度からの新規契約獲得件数の大幅な増加により、商品ポートフォリオの改善が進む一方、コロナ禍の行動変化の影響による通院頻度の増加や、保険金単価の上昇により、発生保険金が増加・高止まり傾向が継続。足元はそうした変化の影響も徐々に安定化への動きを確認

事業費率について

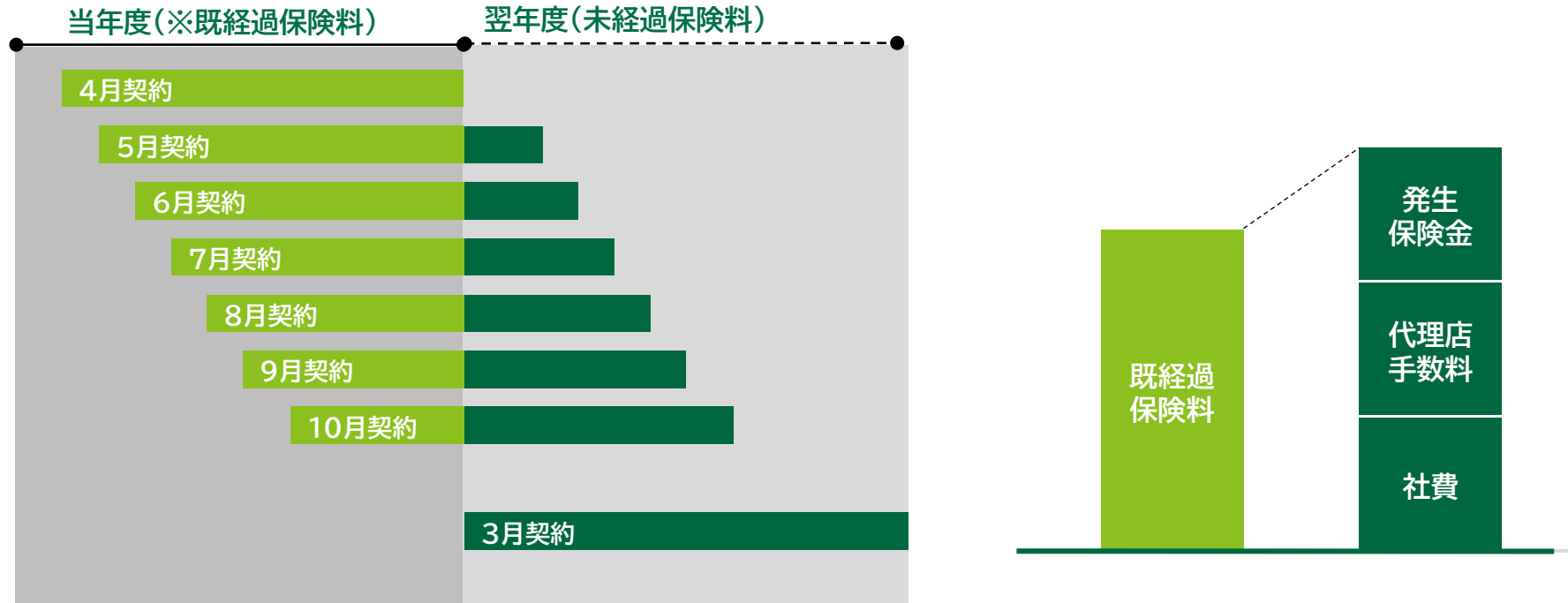
事業拡大に向けた投資を継続。独自サービスである「どうぶつ健活」に係るコストが増加。新規契約件数の増加・競争激化に伴う代理店手数料の増加などにより上昇傾向が続いていたが、足元では、代理店手数料率の削減や、業務効率化・費用改善施策の効果が発現



(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が每期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。